

紙の上の思考 VII

Thoughts through Drawings words

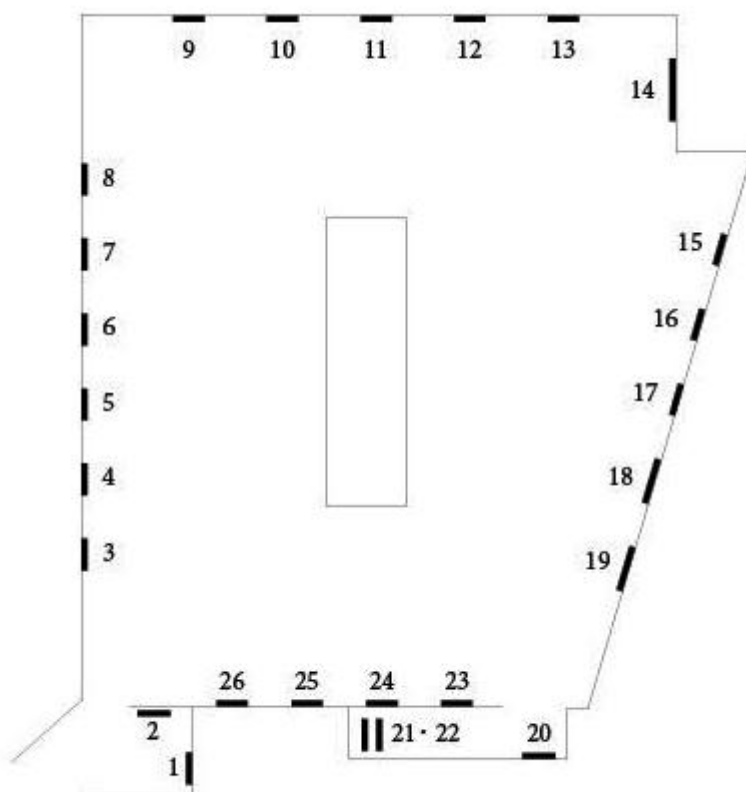
大城夏紀 広沢仁 山神悦子 好宮佐知子

2021.3.6 sat. - 3.21 sun.

12:00 — 19:00 (lastday - 17:00) * mon. tues close

作家コメント / 略歴 / 出品作品

見取り図



Thoughts through Drawings words 展示作品リスト

No	作家名	作品タイトル	素材技法	制作年
1	好宮佐知子	朝(1月)	水彩ガッシュ、和紙	2021
2	大城夏紀	春うらうら、十六夜	鉛筆、グラファイト、色鉛筆、紙	2021
3	広沢仁	get away	アクリルガッシュ、紙	
4	広沢仁	smoke	アクリルガッシュ、紙	
5	広沢仁	Tree	アクリルガッシュ、紙	
6	広沢仁	wrestling	アクリルガッシュ、紙	2018
7	広沢仁	silence	アクリルガッシュ、紙	2016
8	広沢仁	boxing	アクリルガッシュ、紙	
9	山神悦子	砂取り場	鉛筆、墨液、紙	2021
10	山神悦子	カルスト台地	鉛筆、墨液、透明水彩、紙	2021
11	山神悦子	海食洞	鉛筆、墨液、油彩、紙	2021
12	山神悦子	岩場	鉛筆、墨液、紙	2021
13	山神悦子	採石場跡	鉛筆、墨液、油彩、紙	2021
14	山神悦子	石灰岩の山	鉛筆、墨液、油彩、紙	2021
15	好宮佐知子	夢(11月)	水彩ガッシュ、和紙	2021
16	好宮佐知子	浮き島(1月)	水彩ガッシュ、和紙	2021
17	好宮佐知子	小さな光(12月)	水彩ガッシュ、和紙	2021
18	好宮佐知子	吸い込まれてゆく音(12月)	水彩ガッシュ、和紙	2021
19	好宮佐知子	物語(11月)	水彩ガッシュ、和紙	2021
20	大城夏紀	嶋と田	鉛筆、グラファイト、色鉛筆、水彩、糸、紙	2021
21	大城夏紀	春うらうら、雲雀あがる	鉛筆、グラファイト、色鉛筆、糸、顔料プリント、紙	2021
22	大城夏紀	庭、雪、花	鉛筆、グラファイト、色鉛筆、糸、顔料プリント、紙	2021
23	大城夏紀	雲雀あがる、春愁	鉛筆、グラファイト、色鉛筆、糸、顔料プリント、紙	2021
24	大城夏紀	寺井の上の花	鉛筆、グラファイト、色鉛筆、糸、紙	2021
25	大城夏紀	回転する、寺井の上の花	鉛筆、グラファイト、色鉛筆、糸、顔料プリント、紙	2021
26	大城夏紀	屋戸と竹	鉛筆、グラファイト、色鉛筆、糸、紙	2021

大城 夏紀 Natsuki OSHIRO



「春うらうら、十六夜」
鉛筆、グラファイト、色鉛筆、紙 h235 × 262mm 2021



「庭、雪、花」
鉛筆、グラファイト、色鉛筆、糸、顔料プリント、
紙 h92 × w108 × d30mm 2021

comment

奈良時代の歌人である大伴家持の和歌（万葉集）をきっかけとしたドロージングを展示します。写真や絵ではない、字数が限られた言葉を通して見る 1200 年前の風景には余白があり、どこまでも広がるロマンと、複数の可能性、あるいは複数の真実を予感します。ドロージングも、例えば自転車に乗りながら目に入る風景や、授業中の窓の向こうのように、明確なゴールを定めない、通過地点ゆえの様々な可能性を内包するものだと思います。

1つの和歌では、5字や7字の言葉が重なっていくことで、何も無い空間に少しずつ場面が展開され、視点の動きが生まれます。

紙を折り、折った部分を面で塗り、面を見ながら模様を描く。
絵と模様、印刷物の裏表、折り紙と茶室の下地窓、構造と装飾。
和歌の中で言葉が言葉呼び、そしてお互いが複雑に関連して成立するように、そして、もうひとつの可能性を消さないようにと考えながら、紙のドロージングと向き合いました。

大城 夏紀 PROFILE

<http://oshironatsuki.com>

1985年目黒区生まれ、横浜市在住。川崎市のアトリエにて制作を行う。

早稲田大学第二文学部卒業、2012年 東京造形大学大学院造形研究科美術研究領域修了。

2018年 11-12月 シェル美術賞 第1回レジデンス支援プログラムにてパリ (Cite internationale des arts) で滞在制作を行う。

主な個展

2018年 オープンスタジオ「Rhapsody in French garden」Cite internationale des arts・パリ

2018年「山と荒磯 dal segno」ART TRACE Gallery・東京

2017年「ossis」CLOUDS ART+COFFEE・東京

2016年「pianissimo」ART TRACE Gallery・東京

近年のグループ展

2020年

アートハウスおやべ開館5周年展「あゆのかぜいたしくあゆはしる - 見えないものに触れる時」アートハウスおやべ・富山県

「二つの自然」ポート アート&デザイン津山、NishiIma25・岡山県 (岡山県アーティスト滞在・交流事業)

2019年

「シェル美術賞 2019 レジデンス支援プログラム 2018 レジデント展示」国立新美術館・東京

「Pick Up」REIJINSHA GALLERY・東京

「雲のような線 Line, such as a cloud」SAKuRA gallery・東京

「Retro Machinism」TO OV cafe/gallery・札幌、NewId・東京

「3331ART FAIR 2018」アーツ千代田 3331・東京、「ASYAAF 2017」韓国・ソウル DDP、「阿佐ヶ谷アートストリート 2017」杉並区役所・東京、「ホルベイン・スカラシップ選抜展 VOL.3」REIJINSHA GALLERY・東京、「札幌アートフェア 2016」札幌クロスホテル・北海道 (Art Labo 北舟) など、グループ展多数。

シェル美術賞 2017 入選、ワンダーシード 2015 入選、第26回三菱アートゲート・プログラム入選、阿佐ヶ谷美術専門学校「同窓会賞」受賞。第26回ホルベイン・スカラシップ奨学生。



left: " boxing " アクリルガッシュ、紙 25.5 x 21.0cm

light: " silence " アクリルガッシュ、紙 23.5 x 15.0cm 2016 年

comment

新木安利『サークル村の磁場』の中で森崎和江の発見について述べています。彼女は、妊娠・出産した経験から「私が子供を産んだ」と「子供が私から生まれた」とこととの重層した関係を言い表す言葉の欠如に気づき困惑しますが、その後、その感覚は「産み/生まれる」という言葉に着地させ、それを「二重唱」と呼んでいます。新木はそれにコーラス、ダイアローグ、ポリフォニーとルビを振りますが、しびれるような言語感覚で美しく感動的、受動でも能動でもない中動態を思わせる豊かな喚起力を持ちます。図々しく言葉を借りて絵画は「作り/創られる」^{ポリフォニー}二重唱！と言いたくなります。新木は続いて「男の文化や社会の構造には、子のいのちとわたしのいのちの、つまり「あなた」と「わたし」のエロスの二重唱という細部が欠けている。男は女でさえ従属するものとみなして、母胎/胎児の状態を考えてこなかったから、言葉がない。」といますが、これは全面的に正しい。現中高年男性によって占められた「独唱」の政治空間では、いのち（コロナ対策）は放置して経済（利権）を優先し、阿諛・嘲弄・恫喝以外に語る言葉をもちません。で、すぐキレる。森崎和江ならこう言うに違いありません。みみっちい。

絵を描くとき、みみっちくならないよう気をつけています。

広沢 仁 PROFILE

- 1976 山口県生まれ
1999 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業
2001 武蔵野美術大学造形研究科美術専攻版画コース修了

おもな個展

- 2020 「帆船／荒地」柳沢画廊・埼玉、画廊翠巒・群馬、養清堂画廊・東京
2019 「リヴァイアサン」天満屋広島八丁堀アートギャラリー・広島
「Decade」村越画廊・東京
2018 「リヴァイアサン」養清堂画廊・東京、画廊翠巒・群馬、ART SPACE 563・台湾
2017 「テンペスト」天満屋広島八丁堀美術画廊・広島、NEW 新九郎・神奈川
「ドロージョウとカ」アトスペースひとときふたき・神奈川
2016 「テンペスト」養清堂画廊・東京、画廊翠巒・群馬
2015 「Women」天満屋広島八丁堀アートギャラリー・広島
2014 「新しい滝と古い小径」柳沢画廊・埼玉、アトスペース神楽岡・京都、ギャラリーDOOR・山口、画廊翠巒・群馬
2013 「ティンブクトゥ」ギャラリー砂翁・東京、ギャラリーナカノ・山口、ART SPACE 563・台湾、ギャラリーゆう・岐阜
2012 「余波（アフターマス）」養清堂画廊・東京、ギャラリーDOOR・山口、画廊翠巒・群馬、Gallery M.A.P・福岡

おもなグループ展

- 2020 YAN / Taylor Galleries・dublin, Ireland, So Fine Arts Edition・dublin, Ireland
もうひとつの前橋の美術 Vol.2 / 画廊翠巒・群馬
2019 版画のコア core2 / 文房堂ギャラリー・東京
ジュータン 木村真由美、広沢仁、木村友香三人展 / 柳沢画廊・埼玉
青い屋根 木村真由美、広沢仁、木村友香三人展 / 画廊翠巒・群馬
2018 広沢仁・木村真由美二人展 / 天満屋広島八丁堀美術画廊・広島
Art Viewing OME / 青梅市美術館・東京
2017 千 / 柳沢画廊・埼玉
版画のコア core1 / 文房堂ギャラリー・東京
2016 當廊由縁内外作家競演展 / 柳沢画廊・埼玉
Air mail / Fenderesky Gallery・Belfast, Ireland
韓国・中国・日本作家 慶州を描く / ラウギャラリー・韓国慶州市
The Human Figure 2 / 柳沢画廊・埼玉
2015 ガラスバリ 木村真由美、広沢仁、木村友香三人展 / コートギャラリー国立・東京
2014 版画系 / 文房堂ギャラリー・東京
Artist Book 美術家がつくる本の形 旅をよむ / アキバタマビ 21・東京
柳沢雑貨店 / 柳沢画廊・埼玉 (15、 16、 17、 18)
2013 25×25 Contemporary Japanese & Australian Printmaking / Japan Foundation Gallery Sydney Australia
2012 框 木村真由美、広沢仁、木村友香三人展 / アトスペース 88・東京
2011 今、絵画は2011 交差するいのち / まいづる智恵蔵・京都
第9回アートプログラム青梅『山川の間で』 / 青梅市美術館・東京
2010 畳べり 木村真由美、広沢仁、木村友香三人展 / プラスワンオフサイドギャラリー・東京
2009 光と影 / コートギャラリー国立・東京
小さい版画展 / 柳沢画廊・埼玉
転位 / 画廊翠巒・群馬
2008 VISIONS 増殖するイメージ / 日本橋高島屋美術画廊 X・東京、新宿高島屋美術画廊・東京
2007 ALL IN LINE / 柳沢画廊・埼玉
2004 これから / 23 ギャラリー・東京
2003 オープンスタジオ / 未来工房他・東京 (05、 07、 09、 11、 13)

山神 悦子 Etsuko YAMAGAMI



海岸の岩が波で削られ、残された硬い部分が並んでいる様子にリズムが感じられる。

「岩場」鉛筆、墨液、紙 220x333mm 2021



花崗岩を切り取った跡に水が貯まり、地図に無い池を作り出している。壁面に長方形の断面が整然と並ぶ様子は石切職人の几帳面な仕事が規則正しいリズムに支えられていることを伝えている。

「採石場跡」鉛筆、墨液、油彩、紙 220x333mm 2021

comment

key wordとしてのリズム

2021/01/29

山神悦子

制作しながら画面を音楽的な要素に置き換えて考えることがしばしばあります。線はメロディーに、色の組み合わせはハーモニーに対応します。そして最も基本的で欠かせないのは「リズム」です。個々が持っているリズムは生活のあらゆるシーンで様々な形で表れますが、それを意識的に洗練させる事で、アートになると考えています。リズムは音楽を始めとして映画、演劇、舞踏、文芸、絵画、彫刻など芸術全般にとって必要不可欠な要素ですが、スポーツ関連の記事やニュースにも「リズム」という言葉がよく登場します。「攻めのリズムが良いね。」「今日は自分のリズムが出せなかった。」「リズムに乗れたときとそうでないときでは、記録に歴然とした差が出る。」など、心身がうまく合致して無心になった時に自分本来のリズムが出て、良い結果に繋がるようです。

今回の展示作品では、モチーフから感じられるリズムを私の生来のリズムによる描線の動きで表現したいと思いました。ドローイングはペインティングより要素が少なく、小さいものは短時間で制作するため、アスリートが言うような「リズム」が画面に現れる様子がはっきり分かるかも知れません。

山神 悦子 PROFILE

1951 香川県生まれ

1974 お茶の水女子大学家政学部卒業

1974- 76 アメリカ シアトルに滞在

1981- 83 スイス ジュネーヴに滞在

1985- 88 大石洋次郎氏(武蔵野美術大学講師・当時)に油彩を、 86~ 88 黒田克正氏(同)にクロッキーを習う

個展

2019 Gallery 慳 SATORU /東京 (2017,2014,2011,2010,2004)

2018 レストラン かえりやま ギャラリー工房“親”企画/東京

2013 Shonandai MY Gallery /東京 (2012,2011,2009)

2007 ギャラリー工房“親”/東京 (1999)

2006-7 ギャラリーアルテ /香川

2006 GALERIE SOL /東京 (2004,2003,2002,2001,1999)

2003 ギャラリー GAN /東京

2001 Para GLOBE /東京

1997 ギャラリーブロッケン /東京

1996 かわさき IBM 市民文化ギャラリー /神奈川

1995 ギャラリー21+葉 ANNEX /東京

1994 村松画廊/東京

1993 ギャラリーNWハウス /東京

1992 かねこあーとG /東京

1990 かねこあーとG /東京

1989 G アートギャラリー /東京

主なグループ展

2021 「春韻」工房親 /東京 (2020,2016,2014)

2020 「紙の上の思考」Gallery 慳 SATORU /東京 (2018,2017,2016,2015)

2018 「Affordable Art Fair Hong Kong 2018」Shonandai Galleryのブース /香港

2017 「シリーズ/山梨の現代美術作家」iGallery DC /山梨

2017 「CORRESPONDENCE/LANDSCAPE」工房親 /東京

2016 「循環 風と水と大地」Gallery 慳 SATORU /東京

2015 「CONTRAST 実感/イメージ」工房親 /東京

2014 「MY ap.pr 2014」Shonandai MY Gallery /東京

2012 「Slick contemporary art fair」Gallery 慳 SATORUのブース /ベルギー

2008 「ART OSAKA 2008」工房親の部屋 堂島ホテル /大阪

2008 「MY Interaction 2008」Shonandai MY Gallery /東京

2003 「第1回サン・モール版画ビエンナーレ」サン・モール現代美術館 /フランス

1995 「'95 水戸アニュアル 絵画考 器と物差し」水戸美術館 /茨城

滞在制作

2000 The International Painting Plein Air Plovdiv /ブルガリア

1998 Art Colony Galichnik /マケドニア

受賞・助成等

2001 第2回資生堂 ADSP 選出

その他の活動

2017 装画 『夢のあとさき』黒田福美著 三五館発行

収蔵先

あらや滔々庵/石川 ポールヘイスティングス法律事務所/東京 合同会社次世代環境デザイン研究所高根台分室 /茨城 他

好宮 佐知子 Sachiko YOSHIMIYA



「朝（1月）」

水彩ガッシュ、和紙 230×223mm 2021年

張りつめた空気の中、下っていく雪道は静かすぎて
全てが止まっているかのように感じました。



「物語（11月）」

水彩ガッシュ、和紙 125×378mm 2021年

今も昔もこの美しい自然の世界を眺めている人々がいて、今よりもっと自然と一体になって
暮らす人々の逞しさと儚さを思います。

comment

言葉を読むことで想像し、何かを感じることは、作品を鑑賞し何かを感じることは、同じことだと考え、言葉は絵を描く時と同じ気持ちで書きます。

日々生活していくなかで目にする光景を描いているので、自然は常に実感し、いつも意識しながら制作しています。

1977 東京生まれ
 2006 東京藝術大学大学院美術研究科
 博士後期課程美術専攻(壁画)修了
 2015-18 東京藝術大学非常勤講師
 2017-19 愛知県立芸術大学非常勤講師

個展

2002 SPICA MUSEUM/東京
 2003 ギャラリーGAN/東京
 ギャラリー樺 GT2/東京
 2004 ギャラリーGAN/東京 資生堂 ADSP
 2006 Gallery 慳 SATORU/東京(08, 11, 16, 20)
 2007 ウィリアム モリス/東京(13)
 2008 工房 親/東京
 画廊 Full Moon/新潟

2009 MAXVIN/東京
 ギャラリーゴトウ/東京(10, 12)
 イタリア料理 coccinella/東京
 2012 Ristorante CORTESIA/東京
 Restaurant かえりやま/東京
 Kaede Gallery + full moon/新潟(15, 17, 19)
 2019 さんしんギャラリー善/静岡

グループ展

1997 「創作展」東京藝術大学 取手校地
 2000 「二人展」東京藝術大学学生会館展示室
 2001 「台東区コレクション展」東京藝術大学大学美術館
 「トーキョーワンダーウォール公募 2001」東京都現代美術館
 「jam 展 2001」ギャラリー絵夢/東京
 2002 「カフェ・イン・水戸」赤池 孝彦+アート・ランダムス
 旧ユニデパート壁画制作 水戸芸術館/茨城
 2003 「第5回熊谷守一大賞展」アートピア付知交芸プラザ/岐阜
 2004 「定点 2004・それぞれの世界」Gallery 慳 SATORU/東京
 「VOCA 展 2004 現代美術の展望・新しい平面の作家たち」
 上野の森美術館
 「現代リビングアート展 2004 はじめて選ぶアート」
 リビングデザインギャラリー・東京
 2005 「ギャラリーGAN」/東京
 「台東区長賞展」/東京藝術大学大学美術館 陳列館 2階
 2006 「NICHE GALLERY」/東京
 2007 「The Asian Spirit & Soul」Seongnam Art Center/韓国
 「YOKOHAMA みなとみらい展」横浜市民ギャラリー
 「Shanghai Art Fair」NICHE GALLERY Shanghai MART/中国
 「Shanghai Art Fair Emerging Artists Exhibition」
 (NICHE GALLERY) Shanghai MART/中国
 2008 「象鯨展」ギャラリー布う/神奈川
 「追跡する百人展」NICHE GALLERY/東京
 「ART OSAKA 2008」(工房親)堂島ホテル/大阪
 「群馬青年ビエンナーレ 2008」群馬県立近代美術館/群馬
 「ルージュの伝言」工房親/東京
 2009 「今日的と今日迄」展」ギャラリー稲村ヶ崎/神奈川
 「追跡する百人展」NICHE GALLERY/東京
 「女子美短大 美術コース絵画研究室スタッフによる
 Prints & Drawings 展~紙で遊ぼう~」ギャラリー華/東京
 「みなとみらいYOKOHAMA 2009」横浜市民ギャラリー
 「9周年記念展 ミニアチュール展 2009-風景7の視点」
 楓画廊/新潟
 「東京コンテンポラリーアートフェア 2009」
 Gallery 慳 SATORU 東京美術倶楽部/東京
 「女子美展」ギャラリー華/東京
 2010 「12周年記念展 音楽へのオマージュ」ギャラリーゴトウ/東京
 「NEW WORKS-2D-」Gallery 慳 SATORU/東京
 「Shanghai Art Fair Emerging Artists Exhibition」
 (NICHE GALLERY) Shanghai
 「FLOWERS」Gallery 慳 SATORU/東京
 2011 「色考 白」ギャラリー慳 SATORU/東京
 「ドローイングの愉しみ」ギャラリーゴトウ/東京
 「区長賞創設 30周年記念 台東区コレクション展」
 東京藝術大学大学美術館/東京
 「Affordable Art Fair」(Peng Gallery)7 West New York, USA
 「フレスコ展」美術家連盟画廊/東京
 2012 「凱風展」Gallery 慳 SATORU/東京
 「ドローイングの愉しみ」ギャラリーゴトウ/東京
 「アートのXmas カード展」ギャラリーゴトウ/東京

2013 「mille-feuille」Gallery 慳 SATORU/東京
 「Parts/Whole 1」Gallery 慳 SATORU/東京
 「第2回フレスコ展 2013」洋協ホール/東京
 2014 「春韻」工房親 東京
 「MITSUKOSHI x 東京藝術大学 夏の芸術祭 2014 次代を
 担う若手作家作品展」三越日本橋本店/東京
 「瀧谷美香 x 坪井麻衣子 x 好宮佐知子展」
 Kaede Gallery + full moon/新潟
 「30voices, 30 variations」工房親/東京
 2015 「紙の上の思考 Thoughts through Drawings-heart」
 Gallery 慳 SATORU/東京
 「絵画を考える そのイメージ1『自然』 絵画表現領域」
 工房親/東京
 「NEWS 2015 東京藝大油画新任スタッフ展」
 東京藝術大学美術学部 絵画棟アートスペース 1,2階
 「So as to enclose」上野ステーションギャラリー/東京
 「アンデルセン展」Gallery 慳 SATORU/東京
 「画家からの贈り物~私だけの美しい箱~展」
 ギャラリーゴトウ/東京
 「第3回フレスコ展 2015」洋協ホール/東京
 「December Tune それぞれのカタチ」工房親/東京
 2016 「春韻展」工房親/東京
 「My sweet home 展」Kaede Gallery + full moon/新潟
 「さまざまな形、さまざまな色」工房親/東京
 2017 「第4回フレスコ展 2017」洋協ホール/東京
 2018 「さまざまな形、さまざまな色」工房親/東京
 2019 「OPEN & STOW 絵巻」Gallery 慳 SATORU/東京
 「Another day in the park」Gallery 慳 SATORU/東京
 「第5回 フレスコ展 2019」洋協ホール/東京
 「さまざまな形、さまざまな色」工房親/東京
 2020 「春韻展」工房親/東京
 2021 「small tour」Gallery 慳 SATORU/東京

賞歴

2001 卒業制作台東区長賞 東京藝術大学0氏記念賞
 2003 第8回 ADSP 資生堂
 2007 Shanghai Art Fair Emerging Artists Exhibition
 Shanghai MART 中国 特別賞
 2009 第8回現代日本美術会 奨励賞
 2011 第10回現代日本美術会 大賞

その他の活動

2005-06 イタリア世界遺産ガッラ・プラチディア廟モザイク
 の保存と現地修復活動への参加

ワークショップ

2020 「水彩で描く 風景画の世界を旅する講座」静岡県立美術館

パブリックコレクション

台東区 東京

Gallery 榎 SATORU

180-0005 東京都武蔵野市御殿山 1-2-6-B1F

<http://galleriesatoru.com>

<http://galleriesatoru.stores.jp>



online shop